

4 履修案内
1－1 共通教養科目

(2020 年度入学者から適用)

共通教養科目について

(2020年度入学者から適用)

本学の共通教養教育は、自立した良識ある市民としての判断力と実践的能力、国際的感性とコミュニケーション能力を有し、自ら成長することのできる人材を養成することを理念とし、その具現化を目指す以下の方針に基づいて教育課程を編成しています。

1. 学部・学科の枠組を越えた幅広い分野の共通科目を履修することにより、神奈川大学の学生として身に付けるべき、広い視野と総合的な知性を涵養するための科目を配置しています。
2. 現代社会の諸課題や学際的分野等、時代の要請に応える内容を包括した科目を配置しています。
3. 大学への導入教育と学部専攻科目を有機的に関連させるための科目を配置しています。
4. 大学生活に順応できるよう、全学必修科目としてF Y S（ファースト・イヤー・セミナー）を配置しています。
5. 国際社会において必要とされる外国語運用能力を身に付けるための科目を配置しています。
6. 世界の多様性に対する認識や異文化理解を促進するため、英語に加えて、韓国語、スペイン語、中国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語を学べるよう科目を配置しています。
7. より高度な外国語運用能力を養成するため、各言語の基礎的な学力を身に付けている学生を対象に上級者向けの科目を配置しています。

共通教養科目は、1年次から4年次まで全年次を対象として開講されている科目です。下の図のようにいくつかの分野に分かれています。各分野には卒業までに修得しなければならない単位数（卒業要件単位数）が、また一部の学科では進級に必要な単位数が定められています。この単位数は、入学年度、学部・学科で異なりますので、必ず専攻科目のページに記載の「卒業要件」「進級要件」を確認してください。

共通教養科目							
共通基盤科目							共通テーマ科目
初年次ゼミナール	外国語科目	教養基礎演習	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	現代社会と市民

共通教養科目 共通基盤科目について

「共通基盤科目」では幅広い分野にわたる教養や基礎的学力、ジェネリック・スキル（一般的・汎用的な有用性をもつスキル）の育成を旨として、以下の科目を開講しています。

1 初年次ゼミナール（F Y S）（必修）

F Y Sは全学共通の初年次教育科目（必修）です。F Y Sとは、ファースト・イヤー・セミナー（First Year Seminar）の略で、新入学生（1年次生）は少人数のクラスに分かれ、「大学への入門」をセミナー（演習）形式で学びます。本学では、このF Y Sを通して新入学生が大学での学修により早く適応できるようにサポートしています。

2 外国語科目（必修）

今日のグローバル社会において、外国語運用能力がますます不可欠となっていることから、外国語能力の一層の充実を図っています。

3 教養基礎演習

「文章表現基礎演習」を配置しています。思ったこと考えたことをそのとおりに文字にしようとしても、実際にそれを文章にまとめるのは簡単ではありません。料理にも素材や調味料や調理法があるように、文章にも単語やセンテンスや文法があります。それにちょっとした「味付け」も必要です。この基礎演習では、文章表現のコツやことばのおもしろさを学び、日本語の実践的な使い方を身につけることをめざします。

4 人文の分野

過去から現在に至るまで、人は常に「人間」の存在に関心を抱き、その探究に力を注いできました。「人文の分野」では、哲学・宗教・心理・歴史・文学・芸術などの諸分野の学修を通して、人間の存在に関わる様々な事柄とその本質、あるいは人間が生み出した多様な文化とその価値を、これまでよりも広く深く学び、豊かな教養を身につけることを目的としています。学生の皆さんには、この分野の学修を通して人間社会がこれまで積み上げてきた多様な価値観と豊かな文化を理解し、国際社会で通用する幅広い視野と文化的感覚・知的能力を培っていただきたいと思ひます。

5 社会の分野

現代社会は多様化と複雑化の一途をたどり、便利さと同時に様々な問題をも生み出しています。例えば、国境を越えたヒト・モノ・カネの移動は、政治や経済のみならず教育や文化、さらには環境や食品などの分野にも大きな影響を与えています。このような現代社会をどのように把握したらよいのでしょうか。「社会の分野」における科目は、現代社会の多様な諸問題を、学際的かつ多面的に理解するために必要な、様々な学問分野の基礎的概念（理論と体系）を学ぶことを目的としています。学生の皆さんには、政治学、経済学、法学、社会学などそれぞれの学問分野の知識や思考方法を身につけ、多様な問題を解決するために必要な能力を修得していただきたいと思ひます。

6 自然の分野

人文、社会、自然など、どのような分野であれ、私たちが何かの対象について理解しようとするとき、ただそれらを漠然と眺めているだけでは理解することはできません。対象を理解するためには、それにふさわしい言葉、方法、道具からなる枠組みが必要になります。私たちを取り巻く自然の成り立ちや変化、また私たち人間と自然との関わりを理解しようとするときに、必要となる基本的な言葉、方法、道具を提供するのが「自然の分野」の科目群です。具体的には、自然を表現するために必要となる普遍的な言葉（概念、数式等）を提供するのが数学関連の科目であり、これらの言葉を用いて自然の成り立ちや変化を理解する方法と道具を提供するのが物理、化学、生物関連の科目です。さらに、これらの基本的な方法や道具が、実際の社会でどのように応用されているかを知るのが工学関連の科目です。また、自然の分野を学ぶ上で必要となる、情報処理の考え方と方法を提供するのが情報関連の科目です。

自然の分野における考え方・方法と、人文や社会の分野における考え方・方法との違いを知ることは、自分の理解の幅を広げることに繋がりますので、人文や社会の分野と自然の分野をバランスよく履修することを勧めます。

7 人間形成の分野

「人間形成の分野」は、「幅広い教養と豊かな人間性」を育む分野として、本学での学びを人間形成の観点から自覚的に捉えることを促す主旨で設置しています。具体的には、世界と日本の労働環境と社会環境の変化について学び、その中で自分らしい生き方や働き方を考える「キャリアデザイン」、より実践的な形で自分らしい働き方を探究する「国内インターンシップ」、「海外インターンシップ」、健康に関する理論と運動実践を通して、社会生活につながる健康の自己管理のための動機付けとなる知識とその方法を学ぶ「健康科学に関する科目」を配置しています。またこの分野では、本学創立者である米田吉盛の教えや本学で学んだ人たちの足跡を知る「神奈川大学の歴史」を配置していることも特徴です。さらに、様々な体験を基に学びを深めることを目的とした「体験型研修」、「手話入門」、「芸術」なども配置されているため、多種多様な経験を得る機会の多い大学生活を通してこの分野を大いに活用していただきたいと思ひます。

共通教養科目 共通テーマ科目について

「共通テーマ科目」は、現代の諸課題を扱うため、学際的性格あるいは既存の学問分野を越境する性格をもつ科目で、学生が世界と自己との関係性を自立的・主体的に捉えるという基本的視座の形成に資することを目標としています。

こうした主旨・目標にもとづいて、「現代社会と市民」をテーマとし、現代社会における市民の生存、生活、活動にかかわる諸課題を取り上げ、既存の学問分野に収まりきれない学際的な科目として次の7つのサブテーマに基づいた科目を開講しています。

- (1) 世界の中の日本
- (2) 社会と人間
- (3) 科学技術と社会
- (4) 社会生活とスポーツ
- (5) 公共の新しいかたちをもとめて
- (6) 環境と社会
- (7) 科学の世界

共通教養科目 履修要領・教育課程表

(2020年度入学者から適用)

- (1) 卒業するために必要な単位数(卒業要件単位数)は、各学科で異なるため、各学科専攻科目の『教育課程表』で確認してください。また、**1** 共通教養科目卒業要件単位も参照してください。
- (2) 同一授業科目は、重複して履修することはできません。
- (3) 『授業時間割表』上で、科目名が赤字の共通教養科目は、履修制限を行う授業科目です。履修の許可は抽選によりますので、『学修スタートガイド』を参照して手続きしてください。
- (4) 「人間形成の分野」の「体験型研修」は、体験を通して学びを深める科目です。体験する内容の特性に応じて授業計画が立てられており、スポーツ系授業は学外の適地で実習を行います(実習費用が必要)。次の表はその概要です。

種目	ゴルフ(前学期)	マリンスポーツ(後学期)	スキー・スノーボード(後学期)
定員	各時限 12名	20名まで	各時限 15名
授業形態	授業期間内授業+学外実習	事前オリエンテーション+学外実習	授業期間内授業+学外実習
授業曜日時限	前学期火曜3・4限	集中講義 〔事前オリエンテーション〕 7/27午後(予定)	後学期木曜4限・金曜4限
実習期間	8月上旬 3泊4日	9月上旬の4日間 宿泊なし	2月下旬 4泊5日
場所	ロックヒルゴルフクラブ (茨城県常陸大宮市)	湘南江の島海岸 等	志賀高原焼額山スキー場, プリンスホテル(長野県志賀高原)
費用	45,000円(予定)	20,000円(予定)	70,000円(予定)
備考	コースで4ラウンドする予定 ゴルフ未経験者は、前期授業で基本技術が習得できます。	カヤック、スノーケリング、SUP、サーフィン、ウィンドサーフィンを実施します。未経験者も大歓迎です。 *詳細については、以下HPを参照してください。 http://www.hs.kanagawa-u.ac.jp/sports/marine.html	スキーとスノーボードが選択できます。SAJ バッジテストを実施します。初心者から上級者まで指導を行います。

※実習の内容は、授業や事前オリエンテーション時に説明します。

※履修者が少ない場合には、実習内容の変更や開講を取り止める場合があります。

※湘南ひらつかキャンパス開講の「海の体験学習」については、横浜キャンパスの学生も履修可能です。

(詳細はウェブステーションでお知らせします。)

- (5) 履修方法の詳細については、本『履修要覧』とともに、『学修スタートガイド』『授業時間割表』『^{シラバス}Syllabus』を熟読してください。

1 共通教養科目卒業要件単位 (各学科専攻科目の教育課程表もかならず確認してください)

法律学科

共通教養科目 卒業要件単位

- 共通教養科目については、次の単位を含めて32単位以上修得すること。
 - (1) 初年次ゼミナール2単位(必修)。
 - (2) 「外国語科目」から「英語」を8単位以上。ただし、外国人留学生及び外国高等学校在学経験者(帰国生徒等)は申請により、「英語」に換えて4～6単位を「日本語」とすることができる。なお、8単位に不足する単位は「英語」で補うものとする。
 - (3) 人文・社会・自然の各分野からそれぞれ4単位以上。
 - (4) 人間形成の分野から2単位以上。
 - (5) 「共通テーマ科目」から2単位以上。
 - (6) 教養基礎演習、人文・社会・自然・人間形成の各分野及び共通テーマ科目から規定の単位数を超えて6単位以上。
 - (7) 人間形成の分野のうち「キャリアデザイン」、「国内インターンシップ」及び「海外インターンシップ」の単位は、卒業要件単位としては2単位までしか算入できない。

自治行政学科

共通教養科目 卒業要件単位

- 共通教養科目については、次の単位を含めて32単位以上修得すること。
 - (1) 初年次ゼミナール2単位(必修)。
 - (2) 「外国語科目」から「英語」を8単位以上。ただし、外国人留学生及び外国高等学校在学経験者(帰国生徒等)は申請により、「英語」に換えて4～6単位を「日本語」とすることができる。なお、8単位に不足する単位は「英語」で補うものとする。
 - (3) 人文・社会・自然の各分野からそれぞれ4単位以上。
 - (4) 人間形成の分野から2単位以上。
 - (5) 「共通テーマ科目」から2単位以上。
 - (6) 教養基礎演習、人文・社会・自然・人間形成の各分野及び共通テーマ科目から規定の単位数を超えて6単位以上。
 - (7) 人間形成の分野のうち「キャリアデザイン」、「国内インターンシップ」及び「海外インターンシップ」の単位は、卒業要件単位としては2単位までしか算入できない。

2 共通教養科目(外国語科目を除く)教育課程表

次ページを参照してください。

2020年度 共通教養科目 教育課程表 (2020年度入学者から適用)

		全年次対象							
		前学期				後学期			
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通 教養 科目	初年次ゼミナール	F Y S (1年次対象)	2						
	外国語科目	別表							
	教養基礎演習	文章表現基礎演習	2			文章表現基礎演習	2		
	人文の分野	哲学	2	言語学	2	哲学	2	言語学	2
		倫理学	2	世界史	2	倫理学	2	世界史	2
		宗教学	2	日本史	2	宗教学	2	日本史	2
		心理学	2	民俗学	2	心理学	2	民俗学	2
		文学	2	考古学	2	文学	2	考古学	2
		日本語学	2	文化人類学	2	日本語学	2	文化人類学	2
社会の分野	社会学	2	経済学	2	社会学	2	経済学	2	
	人文地理学	2	ジェンダー論	2	人文地理学	2	ジェンダー論	2	
	国際関係概論	2	ボランティア論	2	国際関係概論	2	ボランティア論	2	
	法学	2	経営学	2	法学	2	経営学	2	
	日本国憲法	2	生涯学習論	2	日本国憲法	2	生涯学習論	2	
	政治学	2	◇日本事情	2	政治学	2	◇日本事情	2	
	社会心理学	2			社会心理学	2			
自然の分野	基礎数学	2	基礎生物学	2	基礎数学	2	基礎生物学	2	
	数学	2	生物学	2	数学	2	生物学	2	
	統計学	2	コンピュータ概論	2	統計学	2	コンピュータ概論	2	
	基礎物理学	2	物理科学	2	基礎物理学	2	物理科学	2	
	物理学	2	生命科学	2	物理学	2	生命科学	2	
	基礎化学	2	科学技術史	2	基礎化学	2	科学技術史	2	
	化学	2			化学	2			
人間形成の分野	キャリアデザイン	2	神奈川大学の歴史	2	キャリアデザイン	2	神奈川大学の歴史	2	
	国内インターンシップ	2	健康科学とスポーツ I	1	国内インターンシップ	2	健康科学とスポーツ II	1	
	海外インターンシップ	2	教養スポーツ	1	海外インターンシップ	2	教養スポーツ	1	
	体験型研修	2	公衆衛生	2	体験型研修	2	公衆衛生	2	
	手話入門	2	芸術	2	手話入門	2	芸術	2	
共通 テーマ 科目	社会と人間	2	社会生活とスポーツ	2	社会と人間	2	社会生活とスポーツ	2	
	科学技術と社会	2	環境と社会	2	科学技術と社会	2	環境と社会	2	
	世界の中の日本	2	科学の世界	2	世界の中の日本	2	科学の世界	2	
	公共の新しいかたちをもとめて	2			公共の新しいかたちをもとめて	2			

【備考】

1. ◇印は外国人留学生（外国高等学校在学経験者〔帰国生徒等〕を含む。）を対象とした科目を示す

初年次ゼミナール(F Y S)とキャリア形成に関する科目

神奈川大学は一人ひとりの個性を大切にした教育を実践し、真の実学志向という伝統のもと、さまざまな改革を行ってきました。そして、激変する社会や時代の変化に対応するため、大学での学修の出発点で新入生に適切な助言を与え、学問に誘い学びの態勢を整える機会として「F Y S」を、大学と社会をつなぐ教育として、自己価値を向上させていくことを目的に「キャリア形成科目」を2006年度から導入しました。この共通教養科目として先駆的かつ特徴的な「F Y S」と人間形成の分野にある「キャリア形成に関する科目」について、以下に紹介します。

1 初年次ゼミナール(F Y S)について

F Y Sは全学共通の初年次教育科目(必修)です。F Y Sとは、ファースト・イヤー・セミナー(First Year Seminar)の略で、新入学生(1年次生)は少人数のクラスに分かれ、「大学への入門」をアクティブ・ラーニングの場としてセミナー(演習)形式で学びます。本学では、このF Y Sを通して新入学生が大学での学修により早く適応できるようにサポートします。

新入学生のみなさんは、この科目の履修を通して「高校と大学との違い、神奈川大学の歴史と今、そして今後の授業で必須となるスキル(読み・書き・調べる力・問題発見力・表現力・プレゼンテーション能力)等」を学び、主体的に学修に取り組む姿勢を修得してください。

具体的には、以下のような能力を身につけた学生の育成をめざします。

[大学で学ぶための視点]

- ① 大学で学ぶことの意味を理解し、自分を客観視することができる。
- ② 事象や既存の理論に対して「問題」を発見し、また疑問を提示することができる。
- ③ 自らの能力を自己評価でき、新たな達成目標を設定することができる。

[大学で学ぶための方法]

- ① 大学の組織と沿革を知り、また学修支援システムを自立的・継続的・多面的に利用できる。
- ② 教育課程を理解し、4年間の学修計画をたてることができる。
- ③ 図書館の利用により、独自に文献・資料等を検索又は収集できる。
- ④ 既存の文書を指示された要件に従って要約・再構成でき、また、完成度の高いレポートや小論文を所定の期限までに完成できる。
- ⑤ グループ学習に際しては、協調性をもって主体的に参加することができ、また意見を述べることができる。
- ⑥ プレゼンテーションに際しては、自ら資料を作成し、論点を整理し、所要時間内に口頭発表ができる。

授業回数は、前学期(半期)14回を、「神奈川大学への適応」(前半7回)と「基本的なスタディー・スキルの涵養」(後半7回)とし、「神奈川大学への適応」では、大学生活を送るうえで必要な一般常識や態度を、「基本的なスタディー・スキルの涵養」では、大学で学ぶための基礎的技法を実践的に学びます。

なお、事前・事後課題については毎回教員から指示があり、予習・復習合せて各回あたり約4時間の自己学習が必要です。

第I編 神奈川大学への適応(前半7回)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 主体的に授業に取り組む①
- 第3回 神奈川大学を知る
- 第4回 情報リテラシー
- 第5回 図書館利用ガイダンス
- 第6回 主体的に授業に取り組む②
- 第7回 主体的に授業に取り組む③

第II編 基本的なスタディー・スキルの涵養(後半7回)

以下には、7回を2課題として取り組む際の標準的な例を示した。

- 第8回 レポート作成やプレゼンテーション(1回目)① ～課題設定・資料収集～
- 第9回 レポート作成やプレゼンテーション(1回目)② ～具体的表現～

- 第10回 レポート作成やプレゼンテーション（1回目）③ ～相互での確認，問題改善とその発見～
- 第11回 レポート作成やプレゼンテーション（2回目）④ ～課題設定・資料収集～
- 第12回 レポート作成やプレゼンテーション（2回目）⑤ ～具体的表現～
- 第13回 レポート作成やプレゼンテーション（2回目）⑥ ～相互での確認，問題改善とその発見～
- 第14回 レポート作成やプレゼンテーション（2回目）⑦ ～まとめ～

このFYSは少人数による演習（セミナー）科目です。毎回の出席はもちろんのこと，課題の提出，グループでの学修や作業，そして討論やプレゼンテーションなど，学生の主体的かつ積極的な参加が求められます。

成績評価は，課題，レポート，プレゼンテーション等の内容70%，授業に参加する姿勢30%を目安とします。

2 キャリア形成に関する科目について（共通基盤科目「人間形成の分野」）

「キャリアデザイン」

「キャリア」とは職業経歴だけを意味するものではありません。本学では「キャリア」を「自分らしい生き方のプロセスとスタイル」ととらえ，入学時から全学部生を対象に，自分らしい生き方をデザインするための機会を用意しています。

大学に入学したらまず，人々は人生をどのように生きていくのか，自分らしく生きていくには何を知っておくべきかを考えてみましょう。「キャリアデザイン」はそのための授業科目であり，全学部生が共通して学ぶべきキャリアデザインの基礎を提供する科目です。

学年が進み，卒業後の職業選択が近づいたら，専攻科目での学びを職業にどう活かすか，所属する学部の卒業生はどのようなキャリアを選んでいるかなど，より専門的なキャリア研究に取り組みましょう。また「国内インターンシップ」，「海外インターンシップ」などの実践的な科目を履修して，自分らしい働き方を探求してみることも重要です。

「キャリアデザイン」の授業では，グループワークを多く採り入れて受講者同士が意見を交換し，共有しながら，以下のような内容を学んでいきます。

（1）ライフキャリアを学ぶ

人の一生を「ライフキャリア」ととらえ，私たちは生涯を通してどのように発達していくのか，どのようなライフイベント（就職，結婚，転職などの出来事）を経験するのかを学びます。長い人生を自分らしく歩むために，私たちは「学ぶ」と「働く」ことをどのようにデザインすればよいのか，さらに現代日本の男性と女性のライフキャリアには，それぞれどのような課題があるのかといった視点から，さまざまなライフキャリアを知り，自己の人生を思い描いてみましょう。

（2）ワークキャリアを学ぶ

職業人としての自分らしい歩みを「ワークキャリア」と呼びます。まずは大学での学びがワークキャリアにとってどのような意味を持つのかを考え，大学での学修をワークキャリアに活かす方法を探ります。

大学生になると多くの人がアルバイトを始めますが，アルバイトで働くのと，就職して組織の一員として働くのは何が違うのでしょうか。人生の長い時間を費やす「仕事」に人々は何を求め，何をやりがいと感じているのでしょうか。ここでは働くことの意味を学び，また自分らしいワークキャリアを作るために，働く人々はどのようにして経験を積み，仕事の腕を磨くのかを考えます。

アルバイトを始める時に知っておきたいのが基本的なワークルールです。働く人を守る法律や働く人が守らなければならないルールを知り，さらに労働組合の役割と機能についても学習します。

なお職業人をゲストとして招き，キャリアの実際について話してもらうことも予定しています。人はどのようにして職業を選び，自分らしく働き，ワークライフバランスを保っているのかを，「キャリアモデル」から学ぶこともとても重要です。

（3）キャリアを取り巻く環境とその変化を知る

人生としてのキャリア，職業としてのキャリアを学ぶだけでなく，キャリアを取り巻く環境とその変化についても理解する必要があります。多種多様な職業人の労働の連鎖によって社会が成り立っていること，労働市場の現状と若者のキャリアの変化，働き方の多様化と働く人々の多様化など，世界と日本の労働環境とその変化について学びます。さらに，AIの発達は私たちのキャリアにどのような変化をもたらすのか，私たちはどのような能力を身につけなくてはならないのかなど，仕事の未来について考えてみましょう。

(4) キャリアプランニング

授業の最後には、私たち自身のキャリアプランニングに取り組みます。職業人として働く自己像を思い描き、そこへの道筋を検討して、卒業までの自己開発プランを立案します。すぐに実践できることは何でしょうか。グループで意見交換してみましょう。

なお、「キャリアデザイン」の科目には上記の授業の他にも、企業や団体と連携し、一般のご家庭へのインターンを組み込んだ体験的な授業が用意されることがあります。シラバスをよく読んで、自己のキャリアに必要な授業を履修してください。

「国内インターンシップ」

「国内インターンシップ」は、国内の企業・団体でのインターンシップに参加することを目的として開講するプログラムです。

「国内インターンシップ」の学修目的は以下の4点です。

- ①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る。
- ②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める。
- ③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ。
- ④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ。

大学の休業中に企業・団体で就業体験を行うために、事前授業ではビジネスマナー、コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキル、仕事の指示の受け方と報告の仕方、電話と面談時のマナーなどを身につけ、実習に備えます。

この科目は、実習前の事前授業、企業・団体での実習、実習終了後の成果報告の3ステップに分かれており、このすべてに出席・参加して成果をあげることで単位が修得できます。

「海外インターンシップ」

「海外インターンシップ」は、海外の企業・団体でのインターンシップに参加することを目的として開講するプログラムです。

「海外インターンシップ」の学修目的は、海外生活や業務体験で必要となる「視点・考え方・態度行動・人間関係の築き方」等の異文化コミュニケーションのあり方を理解し、実際場で役立てられるようにすることです。

事前授業では、海外企業オフィスでのワークスタイルや慣習の違い、マナーやコミュニケーションスタイルの習得、受付・店舗等での接客接遇の仕方、電話対応・伝言・報告の仕方などを、実際のオフィスシーンを想定しながら身につけます。また英文履歴書の書き方や、ホームステイ等の生活場面での留意点なども学び、これらを通じて海外生活への不安を軽減し、対応力やプレゼンテーション力を養います。

この科目は大学の休業中に実施される海外インターンシップ実習前の事前授業と、海外の企業・団体での実習、実習終了後の成果報告の3ステップに分かれており、このすべてに出席・参加して成果をあげることで単位が修得できます。

社会生活を送るなかで、外国語を使って必要な事柄や気持ちを伝えたり、情報や知識をやりとりする機会が多くなりました。仕事のために否応なく外国語を使わなければならないことも確かに少なくありませんが、それよりも、外国語を身につけることによって、より心豊かに生きてゆけるのだと考えるほうが肯定的で良い姿勢でしょう。外国語を媒介にして、より広い範囲の、文化的背景が異なる人たちと、映画・スポーツ・音楽など、自分の関心のある事柄について情報や感じ方を伝え合うのは楽しいものです。

現在、いちばん通用性の大きな外国語は英語です。ですから、少なくとも易しい英語だけは大学生の間に使えるようにしましょう。そして、英字新聞の一般記事の大意が理解できるくらいにはしておきましょう。すでに易しい英語が使える人は、自分の専門領域について英語で意志疎通ができるようになるといいですね。

英語が使えるようにするために大事なことをいくつか書いておきます。

第一に、理解できるのと使えるのとは次元が違うということを認識してください。例えば、大学受験レベルの英語が理解できるからといって、中学校レベルの英語が使えるということではありません。理解できないものはもちろん使えませんが、理解できるというのは、使えることへの一歩なのです。

第二に、最も基礎的な水準 — 例えば、中学校レベルの英語 — の構文や語彙を徹底的に練習した人だけが英語が使えるようになります。このレベルの構文と語彙がすべての土台です。土台がしっかりしていなければ、その上に何を載せても崩れてしまいます。基礎レベルの英文が無意識に正しく言え、書けるようにしましょう。

第三に、英語を習得するのは、みなさん自身です。教員は習得の手助けはできますが、記憶するのはみなさんの脳であり、話すのはみなさんの口であり、書くのはみなさんの手です。これから掲げるシラバスには到達目標が書いてありますが、それに到達できるのは、教員の指示にしたがって十分に自学・自習する人たちだけです。

第四に、英語はできるだけ毎日練習するようにしましょう。スポーツや楽器と同じです。いつも練習していないと、せっかく身につけた力もたちまち落ちてしまいます。

第五に、英語を理解することと日本語に訳すことを混同しないようにしましょう。翻訳作業をしているのでもない限り、日本語訳は英語が理解できているかどうかを測る一つの目安にすぎません。ある文脈のなかで与えられた英文の構造、及び使用されている語彙・表現からその英文によって伝えられるべき意味が正しく理解できれば、それでいいわけです。英語を英語として理解する — それを目標に英語学習を進めてもらいたいと思います。

神奈川大学の英語カリキュラムは、全体として、英語をコミュニケーション—話し言葉と書き言葉による意志・気持ち・情報・知識の相互伝達 — の道具にすることを目指して組み立てられています。

しかし、必修科目としての英語 — 「クラス英語」と呼んでいます — だけでは、英語の力を伸ばすためには不十分だと言わねばなりません。ですから、それらに加えて、「選択英語」をできるだけたくさん履修してください。「選択英語」は、特に力をつけたい分野（「読解」、「会話」、「作文」、「リスニング」など）を適切なレベルで学修できるようになっています。

また、コンピュータを使った「Eラーニング・システム」が導入され、学内・学外を問わず、オンラインで英語の自主学習ができます。大いに活用して力を伸ばしてください。

では、心豊かな学生生活が送れるように頑張ってください。努力を厭わなかった人たちには、その努力の分だけ — いえ、きっと、それ以上の達成・喜びが約束されることでしょう。

1 「クラス英語」

習熟度別のクラス編成になっています。

(1) 1年次生

クラスは、みなさんが4月初旬に受験する「プレイスメントテスト」の結果を基に決定されます。クラス決定後は、それぞれのクラスの「英語 I (Listening)」と「英語 I (Speaking)」を前学期に履修し、「英語 II (Listening)」と「英語 II (Speaking)」を後学期に履修します。

「英語 (Listening)」では、主に、リスニングに重きを置きながら、基礎的英語コミュニケーション能力の育成を目指した指導が行われます。

「英語 (Speaking)」は、英語ネイティブスピーカーの教員による授業です。主に、実践的な英会話の指導が行われます。

(2) 2年次生

みなさんが1年次の後学期定期試験後に受験する「プレイメントテスト」の結果を基に再編成されるクラスで、「英語 I (Reading)」と「英語 I (Writing)」を前学期に履修し、「英語 II (Reading)」と「英語 II (Writing)」を後学期に履修します。

「英語 (Reading)」では、主に、読解の指導に重きが置かれます。

「英語 (Writing)」では、英語ネイティブスピーカーの教員により、主に、実践的な英作文の指導が行われます。

なお、「クラス英語」においては、授業回数の4分の3以上の出席が単位修得の必須条件となっていますので、きちんと出席してください。

※「クラス英語」は、TOEIC®のスコアアップを目的としたTOEIC®試験対策も行います。習熟度別のクラス編成のため、試験対策に係る到達目標は各クラスによって異なりますが、次に述べる「選択英語」の初級から上級の履修も視野に入れながら行います。

2 選択英語

「クラス英語」だけでは学習時間が足りません。その不足を補いながら、さらに実力を伸ばすための授業科目です。「選択英語」では、力を伸ばしたい分野を選べるようになっています。また、いくつかのレベルで授業を開講していますから、自分の力にふさわしいレベルを選んで効果を上げてください。

「選択英語」は、系統的・段階的に履修することができます。

- 必修のクラス英語を履修し終えたけれど、もっと英語を勉強したい。
→「特修英語 (中級) ~ (上級)」を履修する。
- 英語で話せるようになりたい。
→「英語会話 (初級) ~ (上級)」を履修する。
- TOEIC®テストのスコアを伸ばしたい。
→「TOEIC 演習 (初級) ~ (上級)」を履修する。
- TOEFL®テストを受け、海外留学をしたい。
→「TOEFL 演習 (初級)」・「留学英語準備講座」を履修する。

「特修英語 (中級) ~ (上級)」は、クラス英語で培った英語力を基に、さらに実用的な英語スキルを身につけることを目的としています。

「英語会話 (初級)」の到達目標は、日常会話ができるようになることです。「英会話 (中級)」では、一般的な事柄について会話ができるようになること、「英語会話 (上級)」では専門的な事柄についても一応の受け答えができるようになることが目標です。

「TOEIC 演習」の到達目標スコアは、概ね (初級) は500点、(中級) は600点、(上級) は700点以上です。

「TOEFL 演習 (初級)」は、初めてTOEFL®を受験する人向けに、4技能 (リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング) を問う TOEFL iBT®に対応し、テスト対策、及び留学時に必要な基礎的能力の育成を目指します。また、「留学準備英語講座」は、TOEFL・IELTSのスコアアップを目標とし、同時に留学先の大学の講義に対応できる英語力を身に付けることを目指します。

なお、選択英語の科目の多くは「履修制限科目」で、履修者の定員数が決まっています。通常の履修登録に先立ち応募し、応募者が定員数を超えた場合は、抽選の結果で履修が決定します。

また、クラス英語同様、授業回数の4分の3以上の出席が単位認定の必須条件となっていますので、きちんと出席してください。

「クラス英語」の再履修者のための授業として、「英語 I～IV（再入門）」があります。授業回数の4分の3以上出席した人たちだけが評価の対象になります。

英語以外の外国語について

(スペイン語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・ロシア語) (2020年度入学者から適用)

英語以外の外国語を何のために学ぶか

誰もがパソコンを操って瞬時に世界の情報に接することができるグローバル化の時代にあつて、人が互いに理解し合うための言葉も多様化をせまられています。その昔ゲートは、外国語を知らぬ者は自国語について何も知らぬも同然だ、と言いました。外国語を学ぶということは、単に言葉ばかりでなく、その背後にあるその国・地域の人文地理をも学ぶことであり、ひいてはそれらを通して自国語の持つ社会、政治、文化的背景の理解がより深まるということです。世界のあらゆる地域と容易に交流できる今日、お互いに異文化を理解し、認め合うことが必要不可欠です。そのためにも既習の英語以外にいくつかの外国語を学んでいただきたいです。

自由な時間が十分にとれる大学の4年間を活用し、諸外国語を学んで海外に出かけてください。百聞は一見にしかず、と言います。まず、実地にて見聞を広めることが大事なのです。

履修の際に注意すること

本学では意欲的に外国語を学ぶみなさんのために、英語以外の外国語として、スペイン語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語が開講されています。セメスター制(学期制)で、「a」、「b」の順に履修してください。初習外国語ですから、「a」がしっかり学修できていなければ、「b」を履修することは事実上困難です。「中級」科目については、原則、①「初級Ⅰa」「初級Ⅰb」を履修して2単位を修得している、②「初級Ⅱa」「初級Ⅱb」を履修して2単位を修得している、のどちらかの条件を満たさないと履修登録できません。次項にそれぞれの外国語の簡単な紹介と、前学期「a」と後学期「b」の授業内容及び授業の進め方などが示されています。よく読んだうえで履修してください。また、学部によって履修の方法や必要な単位数が異なりますので、注意してください。

なお、スペイン語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語の各検定試験に合格すると外国語科目等の単位として認定される制度があります。詳しくは、『履修要覧—横浜キャンパス共通—』の「学則及び諸規程」にある「各種検定試験合格者の単位認定に関する取扱規程」を参照してください。不明な点は、教務課に問い合わせてください。

1 「スペイン語」について

スペイン語は英語とともに世界で最も重要な国際語の一つで、国連の公用語でもあります。スペインや中南米諸国など20か国以上で話されるほか、アメリカ合衆国でもスペイン語を話す人々が大変増えています。これらの国々の政治・経済、社会や文化を理解するためには、スペイン語の学習が欠かせません。

また、スペイン語圏の国々を知ることで、新しい価値観を学ぶことができます。英語ではなくスペイン語を通じて世界を見ることで、グローバル化が進む今日の社会を異なる視点から眺めることができるはずです。私たちが暮らす日本社会の見え方も変わってくるかもしれません。

新しい言語を学ぶのは決して簡単なことではありませんが、英語のほかにスペイン語を身につければ、将来の可能性も大きく広がります。

スペイン語技能検定、DELEなどの資格取得を目指す場合や、スペイン語圏への語学研修・留学を希望する場合は、授業担当者に相談するとともに、中級・上級を積極的に履修してください。

●初級スペイン語

スペイン語によるコミュニケーションのための基礎的な文法や文型を学びます。

スペイン語の動詞の形には大きく分けて直説法と接続法がありますが、初級では直説法の現在形から過去形まで、再帰動詞の活用と用法も含めて学びます。

初級Ⅰは文法中心のクラス、初級Ⅱは会話・表現、つまり「話す」「聞く」が中心のクラスです。したがって、初級ではⅠとⅡの両方を履修しなければなりません。基礎を固めながら実践力をつけるためには、ⅠとⅡの同時履修を強く推奨します。他の授業との兼ね合いで、やむを得ず片方ずつしか履修できない場合は、原則として初級Ⅰを先に履修してください。

●中級スペイン語

中級は、Ⅰが会話・表現中心のクラス、Ⅱが文法・講読中心のクラスです。Ⅱのクラスでは、直説法の完了形と未来形及び接続法まで、スペイン語の時制や用法をひとつとおひ学びます。Ⅰのクラスでは、それらを用いて会話やリスニングの練習などを行います。

●上級スペイン語

中級までで学んだスペイン語の運用能力をさらに向上したい学生のためのクラスです。文法事項の定着をはかりながら、スペイン語による多様な表現を学ぶとともに、スペイン語圏の文化や社会などに関するテキストの読解にも取り組んで総合的な力を養います。

●特修スペイン語

基本的な文法事項の修得を終えた学生が、スペイン語の実践的な運用能力の向上を目指すためのクラスです。スペイン語検定試験の受験やスペイン語圏への語学研修・留学に向けた総合的な学修を行います。

2 「中国語」について

みなさんが外国語の中から中国語を選択して学ぶ場合、漢字で書いてあるから何となく意味が分かるだろうと考える人もいるかもしれませんが、しかし、残念ながらこれは誤解に基づくものです。

言葉というものは、本来音によって伝えられるものです。中国語と日本語も文字を抜きにして比べてみると、音の出し方も文法も全く異なるものだということが分かります。つまり、日本人あるいは日本語を母語とするものにとっては、中国語とはしっかりと勉強しなければ話すことも読むこともできない、あくまでも外国語なのです。

中国語を初めて学ぶ人にとってもう一つ意外に感じられるのは、発音練習にはローマ字を使うということです。しかもこのローマ字表記は、欧米や日本のそれと異なった音で読むものです。また、中国語は同じ発音でも音の高さ低さで意味が変わってしまうため、一つ一つの文字の音の高さ低さも覚える必要があります。こうした中国語の基本である発音のハードルを越えたとき、漢字という見慣れた文字から新しい世界が開けていくことになります。

経済成長を続ける中国と日本の関係は今後もますます強まり、国内外で中国語を話す人々とコミュニケーションを取る機会がさらに増えるでしょう。みなさんが日本社会のみならず、国外においても活躍できる可能性を広げるために、豊富な授業内容を活かし、中国語をしっかりと修得することを願っています。

●初級中国語

授業の組み合わせ

初級にはⅠとⅡ二つのクラスがあります。Ⅰの方は中国語を体系的に学ぶための文法の説明を中心にした授業で、Ⅱの方はコミュニケーション能力の向上を目指した中国語が母語の教員による口頭練習を中心にした授業です。1週間で2科目学習するよう、ⅠとⅡを組み合わせる履修してください。Ⅰ、Ⅱそれぞれ複数のクラスがあり、いずれも前後期を通して、同一教員が担当するので、通年で履修することが望ましいです。

外国語学部英語英文学科については、開講クラス及び開講曜日・時限を指定して授業を行うので、必ずそれに従って履修してください。クラスの指定は4月初旬に各学科の掲示板に掲示します。

履修上の注意

クラスの人数が多い場合、抽選などで他のクラスへ移ってもらうことがありますので、履修を希望する時間帯の授業には、必ず一回目から出席して下さい。

●中級中国語

初級を修得した方はぜひ中級を受講し、着実に基礎を固め、実際のコミュニケーションの場で応用できる実力を身に付けましょう。中級のうち、ⅠとⅢは内容のある中国語を理解できるようになるための講読が中心で、教材は現代中国を知ることでできる評論文や時事文、中国の人々の心に触れる文学作品やエッセイなどが使用されます。これに対し、ⅡとⅣは中国語が母語の教員による発音の練習や会話が中心で、教材も会話体のものが使われます。自分の勉強したい内容に即して、自由に選んで下さい。但し、Ⅰ～Ⅳそれぞれからは一つずつしか選べません。

●上級中国語

中級を修得した方は上級を受講することによって、中国語の能力をさらに伸ばすことができます。上級は基本的に中国語が母語の教員による授業で、全てを中国語で行うものもあります。徹底した少人数教育で行われますので、この授業を一年間受講すればあなたの中国語力は飛躍的に伸びるでしょう。

3 「韓国語」について

韓国語は、日本にとって一番近い国の言葉です。昔から日本と韓国はきわめて親密な、しかしときにはかなり緊張した関係におかれたこともあります。いずれにせよ、隣国の言葉を学ぶということは、これからの時代を考えると非常に重要なことです。

特に最近、日本にとって韓国や朝鮮民主主義人民共和国はますます重要な存在になりつつあります。政治や経済だけでなく、文化や芸術の面においてもそうでもあります。授業では韓国語の文法と会話だけでなく韓国の歴史、文化などについてもできるだけ触れるようにしています。

●初級韓国語

韓国語がまったくはじめての人を対象に、韓国語の文字と発音から授業を進めます。韓国語の文構造は日本語と非常に似ているので、日本語を母語とする学習者にとっては、習得しやすい外国語の一つです。

授業では語学の他に、韓国の歴史や文化をはじめ、最近話題になっている映画や若者の関心事なども取り上げます。1年間の授業で韓国語の読み書きと基本文型が身につきます。

I a・I bでは韓国語の基本的な文法を中心に授業を行い、II a・II bでは韓国ですぐ使える実用的な会話の練習を中心にコミュニケーション能力の養成をはかりますので、I、IIをワンセットで履修してください。

●中級韓国語

初級韓国語を履修した人を対象とします。韓国語の能力を一層高めるため、文法と会話を中心とした4種類のクラスが設けられています。テキストを中心に日常でよく使う語彙、表現を多く覚えます。会話能力の向上のため、実際の場面を想定した練習も行います。韓国を知る上で必要な歴史的出来事、人物、最近の日韓関係などにも目を向けます。さらに、韓国語能力検定試験、ハングル能力検定試験などのサポートもしています。合格し申請すると、2単位が取得できます。同一年度に複数の授業を履修することができます。

●上級韓国語

韓国語の中級程度の学習を終えた人を対象とします。韓国語と日本語の類似点と相違点にも注目しながら、より体系的に学習します。韓国の人々のものの見方と関係のある表現、ことわざなども取り上げ、その特徴について話し合います。ドラマや映画を通して韓国の冠婚葬祭、風習などにも触れ、韓国に対する理解を深めます。韓国語能力検定試験、ハングル能力検定試験などのサポートもしています。合格し申請すると、4単位が修得できます。同一年度に複数の授業を履修することができます。

●特修韓国語

初級韓国語以上を履修した人を対象とします。初級韓国語・中級韓国語・上級韓国語は、どちらかというとな文法や会話中心の授業です。特修韓国語I・IIでは、韓国の社会問題や政治・経済・歴史をめぐる時事関連のトピックスを中心にディスカッションを心がけています。ニュースのワンシーンや韓国と日本の新聞記事を講読・分析しながら、日韓関係についての認識を深めていきます。語彙力・読解力・表現力に加え、ディスカッション能力の向上に力を入れます。また、皆さんの韓国語能力を一層伸ばすため翻訳にも挑戦してもらいます。

ドイツ語はたんにドイツ一国だけの言葉ではなくて、ドイツの他にも、オーストリア、スイス等でも使用されており、さらに、いわゆる中欧、東欧の近隣の国々でもよく通用している言葉です。その使用人口はほぼ1億人と言われております。従来ドイツは、どちらかと言えば哲学、音楽、文学、自然科学などの国であるというイメージが強かったのですが、工業の発達した経済先進国であり、EU（ヨーロッパ連合）の経済を支え、アメリカや日本とともに経済大国でもあります。そしてその経済力と地理的位置から、ヨーロッパの諸国に与える影響も大きく、名実ともにEUのリーダー的存在でもあります。

ドイツ及びオーストリア、スイス等の「ドイツ語文化圏」の政治、経済、社会、歴史、文化等を理解しようとするためには、ドイツ語の習得がどうしても必要です。逆に言うと、ドイツ語の習得によって、みなさんが専門として学修している、大学での専攻分野（法学、経済学、工学他）をさらに深く探究できるチャンスが広がるのです。ドイツ語文化圏においてこれまで研究され蓄積された膨大な知識のデータベースへのアクセスは、ドイツ語を第二外国語として選択されたみなさんにしか与えられません。大学生として自分自身の専門分野にしっかりと向き合い、向上させたい気持ちのある人には強くドイツ語をおすすめします。

また、ドイツ語の学習をより発展させていくために、長期・短期留学は大きな意味を持ちます。ヨーロッパで最も理想的な留学先はドイツです。その理由は、もちろんドイツの大学の質の高さにあるわけですが、その他に、他国の留学費用と比較すると、学費が破格に安いということはあまり知られていないことかもしれません。本学ではドイツへの長期・短期の留学制度が充実しています。また夏季休暇や春季休暇を使って、本学が指定しているドイツの大学主催の語学講座に参加することで、単位認定される制度もありますので、ぜひ活用してください。

●初級ドイツ語

週2回の授業のうち、1回はⅠa、Ⅰb（文法中心）、もう1回はⅡa、Ⅱb（コミュニケーション中心）を行います。Ⅰa、Ⅰbでは、入門から始まり、一応平易なものが理解できるための最低限度の文法知識を学び、Ⅱa、Ⅱbでは、コミュニケーションを成立させるためのドイツ語の表現をさまざま学びます。履修希望者は、自分の出席可能なクラスを選んで受講して下さい。なお、相談及び質問のある者は、専任教員に相談すること。（17号館312号室 ブッヘンベルゲル）

※初級ドイツ語Ⅰa、Ⅰb（文法中心）全クラスで統一教科書を使用します。

※初級ドイツ語Ⅱa、Ⅱb（コミュニケーション中心）全クラスで統一教科書を使用します。

●中級ドイツ語

初級で学んだドイツ語の知識を土台としてさらにドイツ語能力を発展させます。そのために各担当者によってさまざまな教材を用いた多様な内容のクラスが設けられています。ドイツ語の力を磨きながら、ドイツの文化、歴史、社会等に親しみ、ドイツを身近なものとして捉えられるようにします。

なお、Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱbはドイツ人講師によってコミュニケーション・ドイツ語を主体とした授業が行われますので、必要な学生はぜひ受講して下さい。

●上級ドイツ語

ドイツ語能力にいつそう磨きをかけながら、ドイツの文化や歴史、政治・経済、社会事情等について、深く切り込んだ授業が行われます。このクラスの修了者が近年続けてドイツに留学しています。ドイツ語に興味を持つ人、ドイツについて知りたい人、将来ドイツで学びたい人等の積極的な参加を期待します。

●特修ドイツ語

「上級ドイツ語」の内容に沿って行われますが、「特修ドイツ語」はドイツ人講師によって、コミュニケーション、ドイツ語を主体とした授業が行われます。

●ドイツ語検定及びゲーテ・インスティテュート・ドイツ語検定について

本学ではドイツ語技能検定（財団法人ドイツ語学文学振興会主催）4級以上の合格者に対して、外国語科目の卒業要件単位として、2単位以上を認定しています。また、グローバルな資格試験であるゲーテ・インスティテュート・ドイツ語検定は東京ドイツ文化センター（東京青山）で開催されており、初級・中級を修了したみなさんで、特にドイツ語圏への留学を希望している人は、こちらの試験にもぜひトライしてみてください。

フランス語は私たちの生活の中にけっこう入りこんでいる言語です。料理やお菓子の名前（ガトー・オ・ショコラ＝チョコ・ケーキ）や、ファッション、芸術を語る言葉もフランス語由来のものが少なくありません。あなたが今借りているアパートの名前にも、「メゾン（家）」や「ファミリー（家族。本当はファミリーユと発音します）」といったフランス語が使われているかもしれませんね。

フランス語は発音の美しい言語というイメージもあるでしょう。ただそのぶん発音をマスターするのが難しそう…と心配してしまうかもしれません。確かに覚えなければいけないルールは多いですが、一回マスターしてしまえばむしろ英語よりも簡単だと思います。フランス語は英語に比べて例外がとて少ない言語で、理屈好きな人（？）にはぴったりの言語と言えるでしょう。

また英語とほとんど同じ単語もよく出てきます。それはフランス語が英語の影響を受けたからではなく、逆に英語がフランス語の支配を受けたからなのです。例えば英語のbeefはフランス語のboeuf（ブッフ）という言葉から生まれた言葉ですが、beefが「牛肉」だけを表すのに、boeufは「牛肉」も、まだ生きている（？）「牛」も表すのです。どうしてこのような意味のズレが生じたのでしょうか？ まずは自分で考えてみましょう。

そしてフランス語には姉妹とも呼べる存在がいて、スペイン語やイタリア語がその代表です（なぜ兄弟ではなく姉妹なのでしょう？ それはフランス語で「言語 langue」が女性名詞だからです）。ラテン語という共通の母親をもつこれらの言語は互いに似ているところも多く、スペイン人とフランス人がお互いの言語で何とか意志疎通している姿を見かけることも少なくありません。

また言葉だけでなくフランスやフランス人に対して憧れを持つ人も少なくないでしょう。パリジャン・パリジェンヌ、流行の発信地、パティシエの修行の場、エッフェル塔やモン・サン＝ミシェルといった観光地…。確かにフランスは今も昔も世界中の人をひきつけてやまない魅力あふれる国であると思います。

しかしこのような目立つ部分だけでなく、フランスに生きる普通の人々のライフスタイルや価値観にも注目する必要があります。現在のフランスは移民と共存する社会であり、葛藤を抱えつつ、とことんまで議論することで理想の社会を模索している段階と言えます。このような「リアルな」フランスを見ていくことは、大げさではなく、これからの日本を考える上でも重要なのではないのでしょうか。

さらに言えば、フランス語を話すのはフランスだけではなく、ベルギーやスイスといったヨーロッパの地域だけではなく、カナダのケベック地方や、アフリカの多くの国がフランス語を使用しています（アフリカに人道支援に行く人の必須の言語とも言われています）。そこに植民地という過去を見るのと同時に、英語やスペイン語と同様に国際語となっているフランス語の多様な姿も確認できるでしょう。アフリカに興味があるからフランス語を勉強するという選択もよく見られるものです。

フランス語を通して、流行やブランドだけではなく、フランス人の独創的な価値観に触れること、そしてアメリカとはかなり異なるヨーロッパの考え方や、アフリカへの視点を獲得すること——、世界に対するもう一つの見方を、ぜひフランス語を勉強することで発見してみてください。

フランス語の授業は、前半（多くは前学期）と後半（多くは後学期）に分かれています。内容的にはつながりがあります。特に初級の段階では、前半の内容が理解できていないと後半の授業についていくのは難しいです。したがって、特に初級では、前半（a）の単位をとってから後半（b）の授業を履修するようにしてください。

2年次で中級の授業を履修しようとする場合には、フランス語を1年間勉強して得た力が求められるので、初級Ⅰa・Ⅰbを合わせて2単位とる、あるいは、初級Ⅱa・Ⅱbを合わせて2単位とることが望まれます。また、フランス語初級は、ⅠとⅡで一組になっているので、ⅠとⅡを合わせて受講することが望まれます。なお、フランス語初級は外国語科目であり、国際文化交流学科の専攻科目である入門フランス語とは異なるので、間違えないようにしてください。

●初級フランス語／Elementary French

初級フランス語のうち、ⅠaとⅠbを「文法」クラス、ⅡaとⅡbを「会話」クラスとします。

Ⅰa、Ⅰbの文法クラスでは、コミュニケーションのために必要な文法知識を学び、フランス語で書かれた簡単な文を読み、聞き取り、理解することができるようになることをめざします。

Ⅱa、Ⅱbの会話クラスでは、学習者が実際にフランス語を話したり聞いたりする練習をします。日常会話の基本的な表現ができるようになることをめざします。

なお、実際に受講するにあたっては、週2回受講すること（例えば、前学期にはⅠaとⅡaをそれぞれ1つずつ、後学期にはⅠbとⅡbをそれぞれ1つずつ受講すること）が望まれます。

●中級フランス語／Intermediate French

中級には、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳがあります。2つ履修するためには、ⅠとⅡ、ⅡとⅢ、ⅢとⅣなどの、ローマ数字の異なる科目を選択しなければなりません。

中級Ⅰ：文法・講読を学びながら、フランス文化を理解する。

中級Ⅱ：文法事項の復習を中心に、運用力を高めていく。

中級Ⅲ：会話を中心とした授業を行う。

中級Ⅳ：文法・講読を学びながら、フランスの文化や社会についての知識を深める。

●特修フランス語／Special Topics in French

初級、中級よりさらに進んだフランス語の運用能力を養うことをめざします。文学、思想、歴史、社会などに関するテキストを読んだり、複雑なことを伝える会話のトレーニングをしたり、フランス文化・社会をより高度なレベルにおいて理解することをめざします。フランス語の検定試験に合格したい人、留学を準備している人は必ず受講するようにしてください。

●フランス語技能検定試験について

本学では、フランス語技能検定試験（フランス語教育振興協会主催）の1級、準1級、2級、準2級、3級、4級及びDelf, DalFのA1以上の合格者に対して、単位を認定しています。フランス語を勉強する上での目標として、検定試験による客観的評価を得ておくことも一つの選択肢でしょう。

※ フランス語の履修について不明な点がある場合には、横浜キャンパス17-311（熊谷謙介研究室）まで相談しにきてください。

6 「ロシア語」について

ヨーロッパの言語には三つの大きな言語群（ゲルマン・ロマンス・スラヴ）があり、ロシア語はそのうちのスラヴ系の言語の一つです。また、国連の公用語になっています。ロシアばかりでなく、東中欧から中央アジアなどにまたがる国々やその他の約3億の人々がロシア語を理解できると考えられています。

日本との関係では、北方領土問題など政治上の問題があることから、あまり積極的な交流はないように見えるかもしれませんが、しかし、現在、ロシアの経済状況は完全に回復し、日本との経済交流は急速に進展しつつあります。また、文化や芸術などの面では、明治時代から強いつながりがありました。今でも、ピアノやバイオリンを始めとする音楽やバレエ、演劇など、ロシアの芸術は世界有数の水準にあります。また、日本文化に対する関心も高く、活発な交流が行われています。それ以外でも、ロシアは宇宙開発などの分野で、世界最高レベルの科学技術を持っています。

ロシアは中国や韓国と並んで日本の隣に位置しており、今後の経済発展も見込まれることから、東アジアの重要なパートナーになりつつあります。すでに、サハリンや東シベリアでの石油開発が日本と共同で進行しており、エネルギーや資源などの面では日本にとって重要な存在になってきています。

今の日本で外国語の学習と言えば、誰しも英語を一番に考えますが、同じヨーロッパ系の言語でも、少し系統の違う言葉を勉強してみると、普段の生活では気付くことのない新しい物の見方に出会うことができます。個性や多様性が時代のキーワードになりつつある現在ですから、普通の人になかなか勉強できない言葉を学習してみるのも良い経験となるでしょう。

ロシア語の授業では、初級で独特のアルファベットの学習など基礎的な学習から入り、中級で基本的な文法内容などの基礎力を充実させ、上級・特修で読解や作文などの運用力・応用力を養うことを目標とします。英語のアルファベットとは異なるキリル文字を使っているため、初級から上級までのステップを確実に踏んでいくことで、確かな語学力を身につけて下さい。

神奈川大学では、ロシアのアストラハン国立大学・ブリヤート国立大学に交換留学生として派遣されるチャンスもあります。ぜひチャレンジして下さい。

履修についての質問や相談には各教員が随時応じます。

●初級ロシア語

初級では、はじめに文字と発音を学びます。その後、簡単な表現を中心として、文法の基礎を習得していきます。必要に応じて、音声教材やビデオ教材などを活用するほか、ロシアやロシア語が使われている地域についての解説も

行い、生きたロシア語に親しめるようにしていきます。

授業はⅠ・Ⅱの週2回で、履修者各自がⅠ・Ⅱを1コマずつ選択して下さい。

●中級ロシア語

初級での基本的な知識を基にして、語学力の充実を目指します。実用的な表現を中心に学習しながら、辞書を使って文章の読解ができるように指導していきます。中級になると様々な文法事項が出てくるので、勉強は大変そうに見えます。しかし、ロシア語は体系的にできているので、着実にステップを踏むことで誰でも習得することができます。

授業は、教員ごとにⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの区別があります（2020年度はⅢ・Ⅳは休講です）。

●上級・特修ロシア語

初級・中級で学んだロシア語の基礎力をもとに、読解や会話など語学力を実際に運用する力の向上をはかっていきます。その際には、履修者の関心に応じて、実践的な指導を行います。この段階では、ロシアに関連するゼミナールや講義などをあわせて受講することで、より専門的な知識を深めていくこともできるので、積極的に活用して下さい。

また、ロシアへの留学や卒業後の進路などの参考となる情報については、担当教員に積極的に尋ねて下さい。本学からも、貿易や旅行業などをはじめとして様々な業界で活躍している卒業生が出ているので、いろいろな相談に応じることができると思います。

日本語について (対象：外国人留学生，外国高等学校在学経験者〔帰国生徒等〕)

(2020年度入学者から適用)

この講座の目的は、日本語を母語としない学生が、適切なことばを使って意思伝達を行う能力を身につけることです。とくに、大学生活を送る上で必要になる日本語の技術を学ぶことに重点を置いています。

本学に入学してきたみなさんは、自分の希望や考えをある程度伝えられる力をすでに備えています。次にみなさんがすべきことは、そのレベルで満足するのではなく、日本語で表現されていることをより正確に理解する、自分の考えていることを正確に理解してもらうための勉強です。なんとなく伝わればOK，というレベルは卒業です。

留学生や外国高等学校に在学した経験を持つ皆さんの発想やアイデアは、教員にとって時に斬新であり、刺激的で、強く訴えかけてくるものがあります。そのようなみなさんの考えを、授業の中で知ることが教員にとって幸せなことです。しかしながら、伝達の過程で誤解が生まれたり、表現したいことがなかなか伝わらなかったりすることがあり、常々、これはもったいないことだと感じています。正確に伝わらない原因はさまざまです。単純な文法の間違いであったり、漢字の読み間違いであったり、発音の問題であることもあります。また、言語面での問題ではなく、論理立てそのものに矛盾がある場合もあります。

この講座では、言語面での応援をします。学生の皆さんがあまり好きではない文法も避けては通れません。地道に書く作業もともないますから、辛いと思う人もいるかもしれません。しかし、みなさんの表現したいことを理解するためには必要な行程であります。修業だと思って参加してください。外国人留学生，外国高等学校在学経験者のみなさんだからこそつ強みを十分に生かし、本学において、日本語母語話者の大学生に刺激を与える存在になってほしいと願います。

日本語科目は、初中級から上級までの習熟度別クラスになっています。さらに各レベルにおいて、「文を書く」、「文章を理解する」、「自発的に話す」などの技術に特化したクラス編成になっています。履修可能な科目は、入学時のオリエンテーションで行われるプレイスメントテストの結果をもとに決定されます。許可された科目群の中から各科目の内容を理解した上で履修登録をし、授業に参加してください。各科目の内容は、シラバスで確認することができます。

なお、新入留学生の日本語科目の履修登録の詳細については、オリエンテーション時に指示がありますので、必ず確認してください。2年次以上の学生は、ウェブステーションで履修登録ができますが、「日本語Ⅰ a・Ⅰ b」「日本語Ⅱ a・Ⅱ b」を履修する場合は、習熟度の再確認と科目担当者の許可が必要になります。

●日本語Ⅰ a・Ⅰ b

「書く」ことを集中して行うクラスです。とくに、大学の講義を受ける上で必要になるレポート、答案、論文の書き方などを学びます。「書く」だけではなく、何かを書くためには、何かを読む作業も必要になりますので、「読む」練習も加わります。

●日本語Ⅱ a・Ⅱ b

「読む、聞く、書く、話す」の基本的な4技能の向上を目指す科目です。やや基礎的な内容を中心としますので、基本的な文法の確認や発音の矯正なども含みます。大学の授業についていく自信が十分でない学生は、この科目から履修することをすすめます。

●日本語Ⅲ a・Ⅲ b

「話す」「聞く」練習を中心としますが、とくに、大学生活を送る上で必要になる表現の技術を中心に学びます。たとえば、ゼミでの発表や、日常生活における口頭伝達などの練習です。

●日本語Ⅳ a・Ⅳ b

日本語「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」よりさらに高度なレベルで要求される「表現」を行うための授業です。「読む・書く・聞く・話す」4技能のすべての応用練習で、高度な語句や表現の修得を含みます。

●日本語特別演習 A (基礎) (知識) (作文) (応用) (理解) Ⅰ・Ⅱ

中・短期間の留学生のための日本語のクラスです。(基礎) (知識) では中級レベルの文型の学習とその応用練習、(作文) では語いの学習と作文の練習を行います。(応用) では聴解を、(理解) では読解を行い、日本の文化や時事問題に関する理解を深めます。

●日本語演習Ⅰ・Ⅱ

より高度の文章力を必要とする、中国からの留学生のためのクラスです。中国語、日本語で書かれた人文、社会系の文章を翻訳するトレーニングを通じて、専門分野のレポートや論文の執筆ができるような表現力を身に付けることを目指します。大学院に進学を希望するみなさんには特に受講を勧めます。「Ⅰ」は中日翻訳、「Ⅱ」は日中翻訳です。

●日本語演習Ⅲ

就職活動やインターンシップへの参加、就業に自信を持って臨めるようにすることを目的とする科目です。「ビジネス日本語 A」よりも難易度が高い科目です。自己 PR をする、アポイントメントを取る、Eメールでやり取りをするなど、様々な場面を想定し、定型表現を始め、依頼や意見の陳述、提案等の練習を行います。また、事例などから、問題を発見し、解決方法を考え、議論する力を養います。

外国語科目の履修要領・教育課程表

(2020年度入学者から適用)

		法 学 部	
		法 律 学 科	自 治 行 政 学 科
必修科目としての外国語		英語8単位を修得しなければならない。 ただし、外国人留学生及び外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）は申請により、「英語」に換えて、4～6単位を「日本語」とすることができる。日本語については「日本語の履修方法」を参照のこと。	
選択科目としての外国語 (必修以外に外国語を履修した場合)		必修科目の外国語以外に、外国語を修得した場合、その単位は卒業要件中の「自由選択科目」に算入する。（選択科目としての英語については、下記の英語の履修方法を参照のこと）。	
英語の履修方法	必修科目としての英語	必修科目の英語は、プレイスメントテストに基づいたクラス編成を行う。 原則として、前学期と後学期（Ⅰ・Ⅱ）は指定されたクラスの授業を履修しなければならない。 なお、プレイスメントテスト実施については「学修スタートガイド」を参照のこと。	
		1年次では 英語Ⅰ（Listening）（前） 英語Ⅱ（Listening）（後） 英語Ⅰ（Speaking）（前） 英語Ⅱ（Speaking）（後） } 4科目 計4単位を履修しなければならない。	
	2年次では 英語Ⅰ（Reading）（前） 英語Ⅱ（Reading）（後） 英語Ⅰ（Writing）（前） 英語Ⅱ（Writing）（後） } 4科目 計4単位を履修しなければならない。		
	再履修の方法	上記の授業科目を修得できなかった場合、英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（再入門）（各1単位）を不足単位分履修しなければならない。各技能に対応する再履修科目は次のとおり。 英語Ⅰ（Listening）、英語Ⅱ（Listening）・・・英語Ⅰ（再入門） 英語Ⅰ（Speaking）、英語Ⅱ（Speaking）・・・英語Ⅱ（再入門） 英語Ⅰ（Reading）、英語Ⅱ（Reading）・・・英語Ⅲ（再入門） 英語Ⅰ（Writing）、英語Ⅱ（Writing）・・・英語Ⅳ（再入門） ただし、履修する年度で同じ教員の同じ授業科目を複数履修することはできない。	
	選択科目としての英語	「共通教養科目教育課程表（別表 外国語科目）」の「対象学部・学科等」欄で「選択英語」と表記している科目である。修得した単位は卒業要件中の「自由選択科目」に算入する。	
英語以外の外国語の履修方法 (日本語を除く)		① 英語以外の外国語は、韓国語、スペイン語、中国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語がある。 ② それぞれ初級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb・Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb、中級Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb・Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb、上級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、特修Ⅰ・Ⅱに分かれる。 ③ 本学入学以前に初級程度以上の語学力をもっている者は、中級および上級から履修してもよい。ただし、あらかじめ当該外国語の専任教員の許可を得なければならない。 ④ 原則として、それぞれの科目は前学期と後学期（a・b）を通年で履修すること。 ⑤ 学部・学科・クラス・ペアの指定がある科目は、指定された授業を履修すること。ただし、当該外国語の専任教員の許可を得た場合、他の授業を履修することができる。 ⑥ 特修外国語を履修する場合は中級程度以上の語学力が必要なため担当教員の許可を得なければならない。 ⑦ 初級を修得して中級を履修する場合、原則として初級Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb、いずれかの組み合わせで、2単位を修得していなければならない。スペイン語については、原則として初級4単位を修得していなければ中級を履修することはできない。ただし、上記初級4単位のうち3単位を修得している場合は、未修得の初級1単位と中級の同時履修を認める。中国語については、初級2単位を修得していれば中級の履修を認める。	
日本語の履修方法		① 日本語は「外国人留学生」及び「外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）」対象の外国語である。履修するためには、必ずガイダンスに出席して履修の資格認定を受けなければならない。 ② 日本語を必修の外国語とする場合、日本語科目4～6単位を修得することとし、8単位に不足する単位は「英語」で補うものとする。 ③ 原則として、それぞれの科目は前学期と後学期（a・b）を通年で履修しなければならない。	

2020年度 共通教養科目 教育課程表(別表 外国語科目)(2020年度入学者から適用)

授業科目の名称				配当期	授業を行う年次	単位数	対象学部・学科等		
共通教養科目	共通基盤科目	外国語科目	英語	英語 I (基礎)	(前)(後)	1	2	経営学部,理学部を対象とした習熟度別クラス英語	
				英語 I (初級)	(前)(後)	1	2		
				英語 I (中級)	(前)(後)	1	2		
				英語 I (上級)	(前)(後)	1	2		
				英語 II (基礎)	(前)(後)	1	2		経営学部,理学部を対象とした習熟度別クラス英語
				英語 II (初級)	(前)(後)	1	2		
				英語 II (中級)	(前)(後)	1	2		
				英語 II (上級)	(前)(後)	1	2		
				英語 III (基礎)	(前)(後)	1・2	2		経営学部,理学部を対象とした習熟度別クラス英語
				英語 III (初級)	(前)(後)	1・2	2		
				英語 III (中級)	(前)(後)	1・2	2		
				英語 III (上級)	(前)(後)	1・2	2		
				英語 IV (基礎)	(前)(後)	1・2	2	経営学部,理学部を対象とした習熟度別クラス英語	
				英語 IV (初級)	(前)(後)	1・2	2		
				英語 IV (中級)	(前)(後)	1・2	2		
				英語 IV (上級)	(前)(後)	1・2	2		
				英語 I (Listening)	(前)	1	1	法学部, 経済学部, 外国語学部(英語英文学科を除く), 国際日本学部, 人間科学部, 工学部(総合工学プログラムを除く)を対象とした習熟度別クラス英語	
				英語 II (Listening)	(後)	1	1		
				英語 I (Speaking)	(前)	1	1	法学部, 経済学部, 外国語学部(英語英文学科を除く), 国際日本学部, 人間科学部, 工学部(総合工学プログラムを除く)を対象とした習熟度別クラス英語	
				英語 II (Speaking)	(後)	1	1		
				英語 I (Reading)	(前)	2	1	法学部, 経済学部, 外国語学部(英語英文学科を除く), 国際日本学部, 人間科学部, 電気電子情報工学科, 建築学科を対象とした習熟度別クラス英語	
				英語 II (Reading)	(後)	2	1		
				英語 I (Writing)	(前)	1・2	1	法学部, 経済学部, 外国語学部(英語英文学科を除く), 国際日本学部, 人間科学部, 電気電子情報工学科, 建築学科を対象とした習熟度別クラス英語	
				英語 II (Writing)	(後)	1・2	1		
				英語 I (総合)	(前)	1	2	総合工学プログラムを対象とした習熟度別クラス英語	
				英語 II (総合)	(後)	1	2		
				英語 III (総合)	(前)	2	2		
				英語 IV (総合)	(後)	2	2		
				英語 I (再入門)	(前)(後)	2・3・4	1	法学部, 経済学部, 外国語学部(英語英文学科を除く), 国際日本学部, 人間科学部, 工学部(総合工学プログラムを除く)を対象としたクラス英語の再履修科目	
				英語 II (再入門)	(前)(後)	2・3・4	1		
				英語 III (再入門)	(前)(後)	2・3・4	1		
				英語 IV (再入門)	(前)(後)	2・3・4	1		
				実用英語 I	(前)	2	1	機械工学科, 情報システム創成学科, 経営工学科を対象としたクラス英語	
				実用英語 II	(後)	2	1		
				実用英語 III	(前)	3	1		
				実用英語 IV	(後)	3	1		
				科学技術英語 I	(前)	2	2	物質生命化学科を対象としたクラス英語	
				科学技術英語 II	(後)	2	2		
				英語会話(初級 I)	(前)	1・2・3・4	1		
				英語会話(初級 II)	(後)	1・2・3・4	1		
英語会話(中級 I)	(前)	1・2・3・4	1						
英語会話(中級 II)	(後)	1・2・3・4	1						
英語会話(上級 I)	(前)	1・2・3・4	1						
英語会話(上級 II)	(後)	1・2・3・4	1						
TOEIC演習(初級 I)	(前)	1・2・3・4	1	選択英語 全学部(英語英文学科を除く)を対象とした科目					
TOEIC演習(初級 II)	(後)	1・2・3・4	1						
TOEIC演習(中級 I)	(前)	1・2・3・4	1						
TOEIC演習(中級 II)	(後)	1・2・3・4	1						
TOEIC演習(上級 I)	(前)	1・2・3・4	1						
TOEIC演習(上級 II)	(後)	1・2・3・4	1						
TOEFL演習(初級 I)	(前)	1・2・3・4	1						
TOEFL演習(初級 II)	(後)	1・2・3・4	1						
特修英語(中級 I)	(前)	2・3・4	1	選択英語 全学部(英語英文学科を除く)を対象とした科目					
特修英語(中級 II)	(前)	2・3・4	1						
特修英語(中級 III)	(後)	2・3・4	1						
特修英語(中級 IV)	(後)	2・3・4	1						
特修英語(上級 I)	(前)	2・3・4	1						
特修英語(上級 II)	(前)	2・3・4	1						
特修英語(上級 III)	(後)	2・3・4	1						
特修英語(上級 IV)	(後)	2・3・4	1						
留学英語準備講座 I	(前)	1・2・3・4	2	選択英語 全学部を対象とした科目。ただし、プレイスメントテスト上位者等から選抜され受講を希望する者が対象。					
留学英語準備講座 II	(前)	1・2・3・4	2						
留学英語準備講座 III	(前)	1・2・3・4	2						
留学英語準備講座 IV	(後)	1・2・3・4	2						

授業科目の名称		配当期	授業を 行う年次	単位数	対象学部・学科等			
共通教養科目	共通基盤科目	外国語科目	韓国語	初級韓国語 I a	(前)(後)	1・2・3・4	1	全学部を対象とした科目 ただし、「スペイン語」はスペイン語学科を除く 「中国語」は中国語学科を除く
				初級韓国語 I b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級韓国語 II a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級韓国語 II b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級韓国語 III a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級韓国語 III b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級韓国語 IV a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級韓国語 IV b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級韓国語 I a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級韓国語 I b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級韓国語 II a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級韓国語 II b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級韓国語 III a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級韓国語 III b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級韓国語 IV a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級韓国語 IV b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				上級韓国語 I	(前)	2・3・4	1	
				上級韓国語 II	(前)	2・3・4	1	
				上級韓国語 III	(後)	2・3・4	1	
				上級韓国語 IV	(後)	2・3・4	1	
				特修韓国語 I	(後)	1・2・3・4	1	
			特修韓国語 II	(前)	2・3・4	1		
			スペイン語	初級スペイン語 I a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級スペイン語 I b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級スペイン語 II a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級スペイン語 II b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級スペイン語 III a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級スペイン語 III b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級スペイン語 IV a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				初級スペイン語 IV b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級スペイン語 I a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級スペイン語 I b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級スペイン語 II a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級スペイン語 II b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級スペイン語 III a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
				中級スペイン語 III b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
中級スペイン語 IV a	(前)(後)	1・2・3・4		1				
中級スペイン語 IV b	(前)(後)	1・2・3・4		1				
上級スペイン語 I	(前)	2・3・4		1				
上級スペイン語 II	(前)	2・3・4		1				
上級スペイン語 III	(後)	2・3・4		1				
上級スペイン語 IV	(後)	2・3・4		1				
特修スペイン語 I	(後)	1・2・3・4		1				
特修スペイン語 II	(前)	2・3・4	1					
中国語	初級中国語 I a	(前)(後)	1・2・3・4	1				
	初級中国語 I b	(前)(後)	1・2・3・4	1				
	初級中国語 II a	(前)(後)	1・2・3・4	1				
	初級中国語 II b	(前)(後)	1・2・3・4	1				
	初級中国語 III a	(前)(後)	1・2・3・4	1				
	初級中国語 III b	(前)(後)	1・2・3・4	1				
	初級中国語 IV a	(前)(後)	1・2・3・4	1				
	初級中国語 IV b	(前)(後)	1・2・3・4	1				
	中級中国語 I a	(前)(後)	1・2・3・4	1				
	中級中国語 I b	(前)(後)	1・2・3・4	1				
	中級中国語 II a	(前)(後)	1・2・3・4	1				
	中級中国語 II b	(前)(後)	1・2・3・4	1				
	中級中国語 III a	(前)(後)	1・2・3・4	1				
	中級中国語 III b	(前)(後)	1・2・3・4	1				
	中級中国語 IV a	(前)(後)	1・2・3・4	1				
	中級中国語 IV b	(前)(後)	1・2・3・4	1				
	上級中国語 I	(前)	2・3・4	1				
	上級中国語 II	(前)	2・3・4	1				
	上級中国語 III	(後)	2・3・4	1				
	上級中国語 IV	(後)	2・3・4	1				
	特修中国語 I	(後)	1・2・3・4	1				
特修中国語 II	(前)	2・3・4	1					

授業科目の名称		配当期	授業を行 う年次	単位数	対象学部・学科等
共通教養科目 共通基盤科目 外国語科目	ドイツ語	初級ドイツ語 I a	(前)(後)	1・2・3・4	1
		初級ドイツ語 I b	(前)(後)	1・2・3・4	1
		初級ドイツ語 II a	(前)(後)	1・2・3・4	1
		初級ドイツ語 II b	(前)(後)	1・2・3・4	1
		初級ドイツ語 III a	(前)(後)	1・2・3・4	1
		初級ドイツ語 III b	(前)(後)	1・2・3・4	1
		初級ドイツ語 IV a	(前)(後)	1・2・3・4	1
		初級ドイツ語 IV b	(前)(後)	1・2・3・4	1
		中級ドイツ語 I a	(前)(後)	1・2・3・4	1
		中級ドイツ語 I b	(前)(後)	1・2・3・4	1
		中級ドイツ語 II a	(前)(後)	1・2・3・4	1
		中級ドイツ語 II b	(前)(後)	1・2・3・4	1
		中級ドイツ語 III a	(前)(後)	1・2・3・4	1
		中級ドイツ語 III b	(前)(後)	1・2・3・4	1
		中級ドイツ語 IV a	(前)(後)	1・2・3・4	1
		中級ドイツ語 IV b	(前)(後)	1・2・3・4	1
		上級ドイツ語 I	(前)	2・3・4	1
		上級ドイツ語 II	(前)	2・3・4	1
		上級ドイツ語 III	(後)	2・3・4	1
		上級ドイツ語 IV	(後)	2・3・4	1
		特修ドイツ語 I	(後)	1・2・3・4	1
	特修ドイツ語 II	(前)	2・3・4	1	
	フランス語	初級フランス語 I a	(前)(後)	1・2・3・4	1
		初級フランス語 I b	(前)(後)	1・2・3・4	1
		初級フランス語 II a	(前)(後)	1・2・3・4	1
		初級フランス語 II b	(前)(後)	1・2・3・4	1
		初級フランス語 III a	(前)(後)	1・2・3・4	1
		初級フランス語 III b	(前)(後)	1・2・3・4	1
		初級フランス語 IV a	(前)(後)	1・2・3・4	1
		初級フランス語 IV b	(前)(後)	1・2・3・4	1
		中級フランス語 I a	(前)(後)	1・2・3・4	1
		中級フランス語 I b	(前)(後)	1・2・3・4	1
		中級フランス語 II a	(前)(後)	1・2・3・4	1
		中級フランス語 II b	(前)(後)	1・2・3・4	1
		中級フランス語 III a	(前)(後)	1・2・3・4	1
		中級フランス語 III b	(前)(後)	1・2・3・4	1
中級フランス語 IV a		(前)(後)	1・2・3・4	1	
中級フランス語 IV b	(前)(後)	1・2・3・4	1		
上級フランス語 I	(前)	2・3・4	1		
上級フランス語 II	(前)	2・3・4	1		
上級フランス語 III	(後)	2・3・4	1		
上級フランス語 IV	(後)	2・3・4	1		
特修フランス語 I	(後)	1・2・3・4	1		
特修フランス語 II	(前)	2・3・4	1		
ロシア語	初級ロシア語 I a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
	初級ロシア語 I b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
	初級ロシア語 II a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
	初級ロシア語 II b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
	初級ロシア語 III a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
	初級ロシア語 III b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
	初級ロシア語 IV a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
	初級ロシア語 IV b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
	中級ロシア語 I a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
	中級ロシア語 I b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
	中級ロシア語 II a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
	中級ロシア語 II b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
	中級ロシア語 III a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
	中級ロシア語 III b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
	中級ロシア語 IV a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
中級ロシア語 IV b	(前)(後)	1・2・3・4	1		
上級ロシア語 I	(前)	2・3・4	1		
上級ロシア語 II	(前)	2・3・4	1		
上級ロシア語 III	(後)	2・3・4	1		
上級ロシア語 IV	(後)	2・3・4	1		
特修ロシア語 I	(後)	1・2・3・4	1		
特修ロシア語 II	(前)	2・3・4	1		

全学部を対象とした科目
ただし、「スペイン語」はスペイン語学科を除く
「中国語」は中国語学科を除く

授業科目の名称				配当期	授業を行う年次	単位数	対象学部・学科等
共通 教養 科目	共通 基盤 科目	外国 語科 目	* 日本語 I a	(前)(後)	1・2・3・4	1	外国人留学生[外国高等学校在学経験者(帰国生徒等)を含む](国際文化交流学科を除く)を対象とした科目
			* 日本語 I b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
			* 日本語 II a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
			* 日本語 II b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
			* 日本語 III a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
			* 日本語 III b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
			* 日本語 IV a	(前)(後)	1・2・3・4	1	
			* 日本語 IV b	(前)(後)	1・2・3・4	1	
			* 日本語演習 I	(前)	2・3・4	1	
			* 日本語演習 II	(後)	2・3・4	1	
			* 日本語演習 III	(前)(後)	2・3・4	1	
			☆ 日本語特別演習 (基礎) A I	(前)	1・2・3・4	1	受入交換留学生を対象とした科目
			☆ 日本語特別演習 (基礎) A II	(後)	1・2・3・4	1	
			☆ 日本語特別演習 (作文) A I	(前)	1・2・3・4	1	
			☆ 日本語特別演習 (作文) A II	(後)	1・2・3・4	1	
			☆ 日本語特別演習 (応用) A I	(前)	1・2・3・4	1	
			☆ 日本語特別演習 (応用) A II	(後)	1・2・3・4	1	
			☆ 日本語特別演習 (知識) A I	(前)	1・2・3・4	1	
			☆ 日本語特別演習 (知識) A II	(後)	1・2・3・4	1	
			☆ 日本語特別演習 (理解) A I	(前)	1・2・3・4	1	
☆ 日本語特別演習 (理解) A II	(後)	1・2・3・4	1				

【備 考】

- 1 外国語科目の卒業要件単位数を含め、履修全般について「外国語科目の履修要領」を参照のこと。
- 2 *印は外国人留学生 [外国高等学校在学経験者 (帰国生徒等) を含む] を対象とした科目である。
- 3 ☆印は受入交換留学生を対象とした科目である。
- 4 視覚・聴覚障がい等のために必修の英語科目の受講が困難な者には、他の英語科目で代替することができる。